

～ 子宮頸部細胞診検査 ～

子宮筋腫

成人女性の2～4割にみられ、30～40代に発症する
場合が多く、珍しくない良性の腫瘍です。
特に症状がなくても、健康診断で偶然指摘されることも多いです。
がん(悪性の腫瘍)ではありませんが、貧血や痛みなど様々な症状の原因
となる場合があります。主な症状は、月経量の増加と月経痛です。
その他に月経以外の出血、腰痛、頻尿などがあります。

子宮頸管ポリープ

子宮の入り口(頸部)に、ポリープとよばれるキノコ状の良性腫瘍ができます。
妊娠を経験した30～40代に発生します。
痛みはほとんどありませんが、組織が弱くなるため出血しやすくなったり、
血の混じったおりものが出るなどの症状がみられます。

萎縮性膣炎

閉経によって女性ホルモンが低下し膣や外陰部に炎症が起こります。
症状は乾燥感、灼熱感、掻痒感、性交痛、
おりもの(色がある、においがする)、圧迫感、違和感などです。
また、頻尿、尿意切迫感、繰り返す膀胱炎などの尿症状を伴うことも多いです。

子宮脱

骨盤の中にある子宮を支える筋肉が緩んでしまい、
子宮の一部または全部が膣から脱出してしまう病気です。
出産経験のある中高年に多く発症します。
症状はおりものの増加、出血など程度により様々です。
排尿障害や排便障害の原因になる場合もあります。